



特集：ブラジルへの移民開始100年

◆ 日本人のブラジルへの移民開始

日本の近代化に伴う混乱、日清・日露戦争や相次ぐ不況による農村の疲弊などを背景とした、海外への移民は、当初北米・ハワイが主な移民先でしたが、「黄禍論」を背景に、現地での排斥が激化し、上陸を拒否される事態にまで至りました。そこで、日本の移民政策の矛先は、南米ブラジルに向かれられます。

1888年に奴隸制を廃止したブラジルでは、コーヒー農園での労働力不足が深刻となっており、そこに注目した「皇國殖民合資会社」の斡旋で、1908年（明治41年）、最初の日本のブラジル移民を乗せた「笠戸丸」が、神戸港を出航しました。こうして、日本からブラジルへの移民が始まりました。

移民たちは、上陸後、まずサンパウロ州移民収容所に送られ、雇用先のコーヒー農園で就労する契約を結んだ後、各地へ向かいました。斡旋時に説明されていた話とは違って、雇用先での農耕生活は厳しく、結局、より賃金の高い鉄道敷設工事など、さらに過酷な労働にも従事する事も少なくなかったそうです。コーヒー農園での労働の契約が終わると、土地を借りたり購入して、開拓するなど、自立の道を歩み始めます。広大な原野を開拓しながらも、日本人学校を建て、現地でも日本文化を守りながら、第二の故郷を少しづつ築きあげていきました。

太平洋戦争では、ブラジルは連合国側でしたので、政府による、強制立ち退き・資産凍結・日本人学校の閉鎖などの苦難も味わい、戦後においても、母国日本の敗戦を認めない者（勝ち組）とそうでない者（負け組）同士が対立し、困難は続きました。

◆ ブラジルの日系社会について

= 国際交流職員 土井セリーナ弘美さんの場合 =
(2001年来日)

世界最大といわれるブラジルの日系人社会は、現在約6割が3・4世で構成されているそうです。当初移民された方々は、いずれは帰国したいとの気持ちを持っていたので、文化・習慣の違う日系人以外の方との結婚を拒んでいましたが、現在では、混血が進んでいます。

日本語が話せない日系人が増えつつあり、“ラテン化”する日系人は、自分の意思・気持ちに素直に生きるために、本音と建前の使い分けや、世間や他人の目などをあまり気にしないし、スキンシップを大事にします。世代交代と共に、日本人特有の心の文化は薄れているように感じますが、行事などの文化は、これからも続していくと思います。

ブラジルでは、サンパウロ市を中心に、都道府県毎の「県人会」があり、また日系人が集中しているまちには、「日本人会館」や「日本文化協会」があって、日本語教室・運動会・盆踊り・日本語スピーチ大会・餅つき・生け花などのイベントが開催されています。地方によっては日本の歌のカラオケ大会もあります。



地域の発表会(日本人会館)

私の両親は、私たち兄弟が日本文化を少しでも理解でき、学べる環境で育ててくれました。そのため幼い頃から、家では日本語で話し、日本の童謡を聞き、日本語のビデオテープや、小学館の“1年生”から“6年生”的本を買ってもらって、日本語学校に通わせてもらいました。クリスマスプレゼントやお年玉の習慣もありましたが、我が家では、クリスマスよりお正月を大事にしていました。

私は8年前に来日しましたが、日本語が話せる日系人は、日本人より純粋に“元の”日本語を使っているかも知れないと感じました。それは、日本人は英語に影響されやすく、本来の日本語を“カタカナ語”に言い換えたりしているからです。逆に日系人の日本語の使い方で、日本人が不思議に思うこともあります。例えば「外人」という言葉です。私たち日系人はブラジル人ですが、日系社会では、日系人以外のブラジル人のことを「外人」と呼んでいます。

ブラジルは世界最大の日系人社会で、約150万人の日系人が住んでいます。広いブラジルの中でも、日系人同士のつながりはとても深く、思わずところで知り合いが増えています。

◆ “デカセギ(dekassegui)” = 再びブラジルから日本へ =

1980年代、ブラジルの経済の不安定化と、日本の好景気による労働力不足もあって、再び母国を目指す日系ブラジル人が増加しました。当初は、日本国籍を持つ1、2世の帰国が主流でしたが、1990年の改正入管法の施行により、在留資格の要件が緩和され、日本への“デカセギ”が急増しました。現在、各務原市内のブラジル人の登録者数は、2,025人となっています。

(外国人登録者数4,278人、総人口149,882人 [2007年12月31日現在])

◆ 各務原国際協会の多文化共生事業

ブラジル人をはじめとした外国人との共生時代を迎え、各務原国際協会では、定住化傾向にある外国人と日本人の共生を目的に、下記のような事業を実施しています。

- 各務原市広報紙のポルトガル語版作成・ホームページ(www.kia1986.org)掲載・配布
- ボランティア講師による日本語講座の開催(日本語以外を母国語とする人を対象)
 - 毎週水曜日18時～21時 産業文化センター2階会議室(予定)
 - この講座で外国籍市民に日本語を教えるボランティア講師の方を募集しています。
 - 一度教室をご見学ください。見学申込は、下記事務局までご連絡下さい。

各務原国際協会への入会について

<会員の特典>

- 協会会報KIA TIMES提供(年間3～4回発行、郵送)、イベントチラシ(随時郵送)
- 各種国際協会主催行事への参加、国際協会主催行事での参加料の割引制度があります。

<1> 個人会員.....1口 2,000円

<2> 法人会員(会社・団体).....1口 10,000円

※ ホームページ www.kia1986.org よりご登録下さい。

※ 有効期間は、1年間(年度制4月～翌年3月末)



<各務原国際協会 事務局>

〒504-8555 各務原市那加桜町1-69 各務原市観光交流課内(産業文化センター5階)

ホームページ www.kia1986.org メール kia@city.kakamigahara.gifu.jp

Tel (058) 383-1426 Fax (058) 389-0765